



野田首相ってどんな人

野田佳彦内閣が発足しました。残念ながら、国民は野田首相をよく知りません。一部週刊誌で『使い勝手よし彦くん』などといっていますが、私たち市民からみて野田首相はどんな人でしょう。



財界とアメリカにあって

消費税増税

「消費税の議論から逃げるわけにはいかない」と公言。菅政権の財務相就任後は消費税の10%への増税を盛り込んだ「税と社会保障の一体改革」推進を主導、代表選では増税法案を来年の通常国会に提出することについて、「出さないという議論はありえない」と際立った姿勢。



日米軍事同盟・普天間基地問題



日米軍事同盟は、「国際公共財」と強調し、米軍普天間基地「辺野古移設」については「菅政権の政策の継続」を表明し、辺野古に米新基地建設の立場です。

改憲や選挙制度改悪を一貫して主張。侵略戦争美化の歴史観が、韓国や中国などのなどの反発を呼んでいます。

原発推進の立場

原発問題では、「原子力発電の信頼を回復させる」「安全性を確認した原子力発電所の活用」を主張。停止原発についても「安全性のチェックをして再稼動」という方針です。8割に達する原発廃止・縮小の世論にも反する、原発推進の立場が特徴です。

財界は大歓迎

野田首相の誕生を手放しで喜んだのは財界です。米倉弘昌・日本経団連会長は「ジャパンドリームの実現だ。（菅前首相とは）首から上の質が違う」とほめちぎるほどです。



増税、改憲、侵略美化、原発推進

使い勝手よし彦くん

野田どじょう内閣の正体



野田佳彦
内閣が発足しましたが、そこから見えてくるのは、翼賛体制を強め、国民そっちのけで消費税増税や日米軍事同盟強化など国民をないがしろにする政治姿勢。とんでもないドジョウ内閣です。



国民には更なる犠牲を押し付け

財界直結、原発推進、自公翼賛体制、日米同盟強化

財界と TPP・消費税増税で直結

野田首相は今回の組閣を前に、日本経団連はじめ財界3団体を訪問し、うかがいをたてるという異例の行動に出ました。それは、環太平洋連携協定（TPP）推進、「社会保障と税の一体改革」の名による消費税増税、原発推進などを要求する財界との「直結路線」をすすむことを宣言したものです。

自・公と 「翼賛体制」作りに躍起

組閣前の自民・公明両党との党首会談も異様でした。党首会談では、民主党の「マニフェスト（政権公約）」見直しを約束した「3党合意」の堅持を約束し、震災復興や税制、円高対策などでの協議機関設置を話し合いました。「自民党の政治を変える」といって政権を交代した立場を投げ捨て、「大連立」を含めた「翼賛」政治に舵（かじ）を切ることを浮き彫りにしました。



アメリカと 「同盟深化」へまい進

政調会長の要職に就任した前原氏は、党内きっての親米派。沖縄県名護市辺野古に新しい米軍基地を建設する「日米合意」についても沖縄県民の反対意見を押し切って強行する構え。玄葉新外相、一川新防衛相ら新閣僚も「日米合意」最優先の立場です。沖縄では、警戒感が強まっています。